

# 日韓戦

*The Big Game*

ワシントン大学セントルイス  
Washington University in St. Louis

崔 元宇  
Choi Wonwoo

最初、コンテストのトピックが自由だと聞いた時、実は手に負えない自由を得てしまったと思います。絶望していました。このような席では何に付いて話せば良いのか、何日、パソコンの前で顔をしかめながら頭を抱えたか知りません。

そんな時、久しぶりに韓国の母から電話がかかってきました。母に私の悩みを伝えたら、彼女は全くあきれた声で「結局、貴方に与えられた時間なのだから、貴方が一番話したい事に付いて話せばいいのよ。何をそんな小さな事で迷っているの、男らしくない。」と笑われました。

お陰で、電話を切った後、すぐにトピックを選べました。今日、私は自分が日本語で一番話してみたい事、(そして男らしいトピックでもある)サッカーと日韓関係に付いて話したいと思います。

私のサッカー熱は小学2年生だった頃に遡ります。2002年FIFA W杯韓国日本で、韓国がPKでスペインの「無敵艦隊」を沈めたあの時の感動は今でも言葉にならないうらみです。当時、韓国で大勢の人と試合見ていて、ゴールが決まった時、赤



の他人と大声で叫び、泣きながら抱き合、てジャンプしてしまいました。振り返、てみると、その日以来サッカーが大好きにな、たと思います。

韓国代表チームの熱烈なサポーターとして日韓戦は最も大事な試合です。ボロ負けの後には悔しくて眠れなかつた時もあり、朴智星がか、こい先制ゴールを決めた時は感動して涙が出た時もありました。もうすぐ二十歳になる私でしたが、なぜか日韓戦の時だけは感情のコントロールができない、あの頃の9歳の小学生に戻、てしまおうようでした。サッカーには人を子供に戻らせる不思議な力があるみたいです。

しかし、この何年間か、私の日韓戦の見方は変わ、てしまいました。今までは試合の感想は家族や友達としかしませんでした。近頃フェースブックの大ブームが起こり、やがて試合当日の私のニュースフィードは日韓戦関連の見苦しい討論で占められていました。汚い言葉でお互いを罵倒し、憎しみを表し、そしてそのようなお互いへの中傷はマスコミや他のポータルサイトで翻訳され、さ



らに大勢の人々を傷付けました。最近私は日韓戦  
が開催されるたび、友達の日韓感情の狭間で、パ  
ソコンの前で忙しくしていました。一方、学校で  
は翌日、日本人の友達との空気が少し変な感じが  
しました。もしかして彼らも私の見えなるところ  
で反韓感情を抱いていて、何となく気まずかった  
のかも知れません。

オンラインの匿名性の問題を指摘しているの  
はありません。結局、少しでもお互いに興味を持  
って、相手も自分と同じ人間である事をまず自覚  
しないと、人間関係、ひいては、日韓関係の改善  
は実現しないと思います。お互いについて無知な  
からこそ、相手を理解しようとせず、卑下してし  
まうのです。まるで、隣のクラスの嫌いな子の陰で  
悪口を言う、幼稚な9歳の小学生のように。

もちろん、また19歳のたまたまのサッカーバカ  
の青二才が大勢の人を小学生みたいだと決めつけるの  
は分不相応かもしれません。ただ、私が皆さんに  
伝えたい事は一つです。これが日韓戦を二覧に  
なる時、その試合が日韓戦である前にサッカーで



ある事、そして、私たちは「何カ人」である前に「人」である事に、思いを馳せながらご覧にな。てくださ。い。極めて当然な話だと思われるかも知れませんが、人の考え方は、レッテルを貼る前に共感をずる事だけで、ものすごく変わる物だと私は信じています。いつか、こんな言葉を聞いた事があります。「他人も自分のような同じ人間だと感じられるのであれば、乗り越えられない紛争はなく、受け入れられない他人はない」と。

私は人と人の関係で、純粋な好意を持って接した相手に拒絶される事はまずないと思います。しかし、国籍、文化、歴史など、歩み寄らないための言い訳なら、いくらでも作れます。やはり、一番難しいのは先に手を差し出す事でしよう。だからサッカーでは試合を始める前にチームの全メンバーが相手の選手全員と、一人一人、握手をするのかも知れませんが。お互いの差し出した手をが。ちりと握って、その人の温もりを感じ、人として絶対忘れてはいけない大事な事を思い出すために。ご静聴、ありがとうございます。